
Act:Reverse——**創造者な俺の異世界記録**——

利瀬 時夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Act: Reverse——創造者な俺の異世界記録——

【Nコード】

N9094Y

【作者名】

利瀬 時夜

【あらすじ】

異世界？フィアデルフィア？に召喚された瀧沢志紀は、元居た世界に戻る為に世界改変を頼まれた——と言うのも今は昔。帰れない。それが分かった瞬間、彼の長い旅は幕を閉じた。半ば自暴自棄になりつつ彼は自分の都合の良い居場所を作る為に領土会得を決意する。そして現在、？黒獅白鷲戦争？で駆り出された彼はその戦争にて名を馳せ、領土を会得。侯爵としての地位を得た彼はシャンカティア半島に屋敷の設立を決意した。彼の力は神の力。戦争では鬼神の如く戦い抜き、彼に付いた称号は『黒獅子』——。そんなある時、再

び神より連絡が入る『世界を完全改変して欲しい』と――（主人公最強系物語です。生々しい性描写や残酷な描写が含まれます。苦手な方は即座にバックブラウザ。不定期更新。そしてこの作品は『死ねない俺』の物語の世界の並行世界で展開されます故、すれ違いかもしれませんか。それではどうぞ

第零幕 Worst Fantasy（前書き）

さて、今回もやってまいりましたよ、主人公最強物語。

今回の主人公は色々と最強です、はい。

それではどうぞ

因みに今回のサブタイトルの意味は『最悪な夢』ですね。
では

第零幕
Worst Fantasy

嘔^むせ返る様な血の臭いが鼻孔を突いた。

身を焦がす程の灼熱の熱波が、濛濛と立ち上がる黒煙を巻き上げ、

先程まで藍色で、感嘆する程美しかった夜空が一瞬にして、黒と紅蓮に支配される。

「クッ……あ、はははっ、……あ、ハハハハハハハハ……、くっ……、はは、ははははハハハハッ！」

その場を支配するのは、色だけでは無い。

臭いも勿論の事ながら、その狂喜染みた嗤わらい声もまた、その醜悪な空間を支配した。

左腕は既に肩から下が失われ、頬にもまた痛々しい程の斬り傷が刻まれ、嗤う度、その腕の傷跡と頬から鮮血が零れ伝い落ちる。

落ちた先には、柔らかな、それこそ血の氣を失つた青白い人の肌があつた。

腕の中で、彼女は眠った。

抱かれる様にして、眠る様に、それこそ眠りの森の美女とでも言う様に、眠る様に逝った。

血は彼女へと零れる度に、その白い肌を伝い、纏っている衣類へと流れ、紅色に染め上げる。

「さう、さう。でも、さういふことは、さういふことだ。」と、少年は狂乱の嗤いは止まった。

ぐらっ、と瞬間、世界が揺れた。嗤っていた時とは違い、意識が切り離され様としているのか、膝が笑い、腰が竦み、全身が悲鳴を上げる。

「……あ……—」

少年はそのまま重力に身を任せ、彼女を抱いたまま地面に倒れ伏せた。

それこそ、彼女を庇う様に、己の背から。

「……、あ、ぐ……、ッ、……、は、あ……」

肩が揺れる度に、胸が競り上がり、口から息が吐かれる。

吐く度に香る血の香りは、鼻を塞ぎたくなるほどの物。

倒れた衝撃で腕から更に、夥しい量の命を司る心の臓へと送り届けられるハズの泉の液体が流れ出ていく。

身に纏っている、最高の職人による最高質の黒いコートも途切れ、破れ、千切れ——ボロ雑巾の様になっている。

中に着込んでいるシャツもまた、繊維が細かく、雑魚からの攻撃なら防御出来るのだが、今回ばかりは無理だった。右胸、左脇腹に銃創があり、其処から液体が零れ出ている。

致死的傷の量、死ぬとすれば死因は多量出血。

闇夜の空の如く黒い長い、肩くらいまである髪も紅と灰に汚れ、幼さを残すその顔もまた血化粧ちげしやうが成されている。

嗚呼——俺、死ぬんだな。

其処で少年は自覚する。

此処での約一年半の人生、楽しくもあり、悲しくも有った。

後悔は——あった。

後悔しているからこそ、言葉が浮かばない。

後悔しているからこそ、嗤わらってしまう。

嗚呼——護れなかった。

それが一番の後悔。

必ず護ると言ったのに、将来結婚しよう、約束したのに、護れなかった。

「嗚呼、……ああああ……」

オマエジャダレモマモレナイ。

剎那、その言葉が脳裏を横切った。
全身が痙攣する。

オマエハヤクソクモマモレナイ。

声が震える。

背筋に悪寒が走る。

オマエハ——ムノウダ。

「アアアアアア　嗚呼あああああああああああああああ
あああああああツツツ！！！！！」

獸の如き絶叫。

阿鼻叫喚の如き狂つた叫び声が木霊する。

空は何も答えてはくれない。

彼女は何も答えてはくれない。

「少年、じゃあ僕が救って上げるよ」

誰かが答えてくれた。

分からない。
顔が見えない。

「僕の名前は——でね、君を救って上げる為に此処に来たんだ」

誰だ。

怖い。

救う。

大丈夫。

「あーあ、こんなにやられちゃったんだ。でも大丈夫、君はまだ生きられる。

僕が君に能力を上げるよ。そして一つの宝具もね」

「あ、ああ……、宝、具……、能、……力……ッ、……あ？」

「そうだよ、君の能力は今見た所『エアスベア・イゲジライト時空転移』だけみたいだからね。宝具も『サウンスライズ・エラキライザー千器流星』。武器具現化だけが、良くこれだけで頑張ったね」

「何故、……ッ、それ、を……？」

「だって僕は——だもん、当たり前さ。で、僕が上げる能力は一つ、それはね——」

其処で意識は途切れた。

暗い、暗い闇の中に……。

「……」

目を覚ますと、何時も通りの屋敷だった。

時間はまだ5時45分。

まだ彼女達も起きて来ない時間だ。

「……、夢、にしちゃあ……、悪趣味過ぎるぜ……」

俺は再び寝転び、天井を見上げる。

ウエザスター・オブサーヴァー
確か今日は快晴と？天統観測師？が言っていた。

そりゃあ、洗濯物日和だ。

改めて、俺はそう思った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9094y/>

Act:Reverse——創造者な俺の異世界記録——

2011年11月27日07時00分発行